

都医NEWS

Vol. 671

年頭所感	01
底流/地区医師会長連絡協議会報告	02
令和3年度「医学生、研修医等をサポートするための会」/ 東京都医師会 定例記者会見	03
みどりの広場 ほか	04
都医からのお知らせ ほか	05
地区医師会長からの一言	07

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 ■ 1部77円



年頭所感

2022

治す医療から、支え予防する医療へ



公益社団法人東京都医師会
会長 尾崎 治夫

明けましておめでとございます。この1年間、それぞれの地区で新型コロナウイルス感染症と懸命に闘ってくださった会員の先生方に、改めて深く感謝申し上げます。またしばらくコロナ禍が続くと思われませんが、新年にあたり、思いつくままに抱負を述べさせていただきます。

1 油断せず、新型コロナウイルス感染症の継続を

感染状況が落ち着いた状態が続くと思っていた矢先、オミクロン株が世の中を騒がせています。この原稿を皆さんがお読みになる頃には、この変異株の実態がかなり明らかになっていることでしょう。いずれにせよ、今までとおりマスク・手洗いをして密を避け、換気などの徹底を続けながら、自治体との協力のもと、医療従事者や高齢者、基礎疾患がある方へ、接種間隔8カ月にごだわらず迅速に3回目のワクチン接種を進めていくことが第一と考えます。

2 改めて、治す医療から支える医療に

ブレイクスルー感染が増加するなか、ワクチン・検査パッケージのメリハリの利いた運用も更に重要となってきました。感染者が、経口薬を含む重症化を予防する治療を迅速に受けられる体制の整備も必要です。また変異株に対しても、その多面的な薬理作用から重症化予防が期待されるイベルメクチンの治療について、北里大学・愛知医科大学の先生方や興和株式会社と協力して、更に進めていきたいと考えています。

3 治す医療から予防する医療に

病気になる病状が進行してから治療を受けるのではなく、病気になる前に健康を維持していくことを、生涯を通じて働きかけていく医療への転換が、これからは必要ではないでしょうか。疾病予防対策として、(1)周産期・乳幼児期を通じて健診、予防接種体制の充実、(2)学校現場におけるヘルスリテラシーを高めるための健康教育の充実、(3)新社会人からメタボ対策を徹底、(4)40歳からのがん検診の更なる充実、(5)リキッドバイオプシーの活用、(6)65歳を過ぎたら、メタボ対策からフレイル・認知症予防を重視した健診に移行、などが考えられます。

4 ヒューマンヘルスからワンヘルスに

パンデミックの原因となるような感染症の多くは、人獣共通感染症です。人類による自然破壊により、森の奥深くに生息している野生動物が人間と接触するようになり、その動物と共生していたウイルスが変異して、人間に感染するようになったのが原因であることがほとんどです。スペイン風邪以来繰り返されておられること、未知のウイルスが人間社会に再び襲いかかる危険があると思います。

5 都市型医療のなかで、超高齢社会に耐えられる社会保険制度とは

地球温暖化を防止することも大切ですが、獣医師会や自然保護団体との連携のもと、人獣共通感染症対策すなわちワンヘルスの考え方を進めて自然破壊を防ぎ、動物との共存を図っていくことも極めて重要と考えています。

以上、これからの医療について書かせていただきました。引き続き、東京都から医療を変えていくという意気込みを持って、事業計画に取り入れられるところは取り入れ、頑張ります。会員の皆さんの協力をよろしくお願いたします。

一方、地域包括ケアシステムが円滑に機能するためには、地域密着型の民間病院が経営的に健全な状態で存在していくことが必須です。長年の課題である、全国一律の診療報酬のなかで苦戦している都内の民間病院へのサポートについて、東京都医師会でも東京都と連携して真剣に考えていきたいと思えます。地域を支える病院・診療所



謹賀新年

令和4年(壬寅・みずのえとら)。寅年生まれの人、虎のイメージどおり正義感が強く、ロマンチストで情熱的な人が多いと言われる。なかでも壬寅生まれは、芸術的な才能に恵まれ、チャレンジ精神と決断力があるという。コロナ禍の厳しい冬は続くが、虎のように逆境に立ち向かい、明るい話題を待ちたい。

このコロナ禍で、限られた財源が更に厳しい状態になっています。いつまでも国債などの借金に頼るわけにはいきません。今後も国民皆保険制度を維持していくためには、どのように社会保険制度を変えていけばよいか。医療界でも、自らがしっかりと考えていく時期がきていると思います。

特に、東京都のように高齢者の一人住まいや夫婦のみの世帯が増え続ける都市型医療のなかで、都民を守るための医療提供体制を維持していくためには、診療報酬も含め全国一律の考え方で限界があることもわかってきました。そこで東京都医師会では「TMA 近未来医療会議」を立ち上げ、私の4期目の任期中に答申をまとめ、これからの社会保険制度などの近未来の医療について、東京都医師会からの提言として発信できればと考えているところです。

底流

医療訴訟の現状と 求められる医療倫理

外在的な制約を増やすことで事故を防ぐ医療安全対策には限界がある。患者本位の医療安全対策の質を高めるには、医師の内在的な倫理意識の向上が重要だ。

先頃、最高裁判所から発表された令和2年度の医療訴訟に関する統計(速報値)によれば、訴訟の新受件数はコロナ禍に突入する前の平成30年(773件)、令和元年(828件)に比べ増加している(834件)。示談等の件数を含めれば、医事紛争の発生件数は数え切れない状況にあるのが現実である。

このように現状を踏まえ、医療機関においては、リスクマネジメントⅡ医療訴訟対策が重視されてきている。ただしその本質は、医療機関が訴訟を免れるための対策ではなく、あくまで「患者のための医療安全対策」でなければならぬ。

そして患者本位の医療安全を実現するためには、①患者の信頼を得る診療態度と治療内容、②質の高い医療の提供、

故を防ぐという面も否めず、限界を感じてきていることも事実である。

私が思うに、患者との関係が良好な医師や、医事紛争に巻き込まれない医師には共通点がある。それは情の厚さであり、倫理意識の高さである。患者本位の医療安全対策の質を高めるには、今後はこうした医師の内在的な倫理意識の向上が重要ではないだろうか。

昨今、医の倫理 (medical ethics) は多くの場面で取り上げられており、その創設者とされるヒポクラテスの「ヒポクラテスの誓い」以降、倫理が医学に不可欠な要素であることは疑う余地もない。こうした医の倫理は、ジュネーブ宣言などのように、宣誓の形で公に発表されているもの

もある。

そしてこの医の倫理の根底にあるものは、我々が既に知っている、医師の非常に高い次元での共感 (compassion・他人の苦痛に対する理解と気遣い)、高度な能力 (competence) など、患者自身が最終的な意思決定を行うべきだという患者の自律性 (patient autonomy) の尊重 (その前提にあるものは患者への思いやり) であろう。

たランサムウェアによるサイバー攻撃への対応について、警視庁より説明があった。各地区医師会において、情報セキュリティを早期に点検し対策を講じてほしい。

「電子帳簿保存法」改正に伴う電子データ保存について

「電子帳簿保存法」改正に伴う電子取引による電子データの保存について、有罪措置を中心に対応のポイント等を会計事務所から説明した。

◎地区医師会からの報告

- (1) 中央ブロック
- (2) 城東ブロック

①令和3年度城東ブロック医師会長協議会兼城東ブロック医師会実務者会議について (足立区医師会)

- (3) 城西ブロック
- (4) 城南ブロック
- (5) 城北ブロック

①令和3年度城北地区医師協議会について (北区医師会)

- (6) 多摩ブロック
- (7) 大学ブロック

◎出席者による意見交換

- ◎その他
- (1) フレイルサポート医について
- (2) 「酸素・医療提供ステーション(味の素スタジアム)への医師派遣依頼」に対する要望書について

(北多摩医師会)

- (3) 5・12才未満の新型コロナウイルスワクチンの接種費用について

(葛飾区医師会)

地区医師会長 連絡協議会報告

令和3年12月17日(金)

◎都医からの伝達事項

猪口正孝副会長は挨拶のなかで「現在、オミクロン株の市中感染は拡大していないが、入院患者数や宿泊療養者数などを見ると、確実に医療提供体制に影響を及ぼし始めている。医療提供体制の逼迫を回避するために、オミクロン株の情報を早期に集めて会員の先生方に共有し、情報交換しながら対応策を練ってきたい」と述べた。

◎都医からの伝達事項

(1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に向けた総合的な保健・医療提供体制について

東京都から新型コロナウイルス感染症の今後の感染再拡大

大に向けた総合的な保健・医療提供体制が示されたので、情報提供する。

(2) 新型コロナウイルス感染症に関する東京都検査体制整備計画の改定について

東京都の新型コロナウイルス感染症に関する検査体制整備計画が11月17日より改定された。検査需要見込みの考え方について、第5波における最大新規陽性者数をベースにインフルエンザの流行を想定した検査需要が加算され、1日最大約8・8万件、検査能力は1日最大約10万件となった。

(3) 年末・年始の発熱患者等の診療体制確保について

年末・年始の発熱患者等の診療体制確保について

年末・年始の発熱患者等の診療体制確保について

診療および検査体制の確保について、登録申請数を中間報告する。診療可能な医療機関が少ない日もあるので、再度協力をお願いする。

(4) 診療・検査医療機関による健康観察等支援事業について

東京都では、新型コロナウイルス陽性判明後に自宅療養となった者に対して速やかに健康観察等を実施するために、標記事業を12月12日(予定)より開始する。本事業では、HERSYS等を利用して発生届の作成と合わせて、電話などによる健康観察等を実施した場合、診療・検査医療機関等に対して協力が支給される。多くの医療機

関の協力をお願いする。

(5) 東京総合医療ネットワークについて

東京総合医療ネットワークは、2018年11月に稼働を開始した。現在、都内の14病院が参加しており、更に5病院が年度内に接続予定である。今回、本ネットワーク参加病院に紹介した患者の電子カルテデータについて、診療所からの閲覧機能を実現した。今後、診療所および地域医療連携システム未導入の病院を対象として、閲覧施設の募集を開始する。

(6) 医療機関を狙ったサイバー空間を巡る脅威と対策について

昨今の医療機関を標的とし

令和3年度

医学生、研修医等を サポートするための会

男女共同参画による輝く医師キャリア

11月27日(土)、令和3年度東京都医師会「医学生、研修医等をサポートするための会」が日本大学医師会協力のもと、日本大学医学部記念講堂においてWEB配信を併用したハイブリット形式で開催された。

本講演会は、厚生労働省から委託されている日本医師会女性医師支援センター事業の一環として、東京都医師会が共催しているものである。医



パネルディスカッションの様子

学生や研修医等を対象に、男女共同参画の視点からさまざまな働き方のモデル像を示し、情報提供・意見交換の場を設けて、若手医師が今後のキャリアや働き方を具体的に考える機会になることを目的として開催している。今年度は、市川菊乃東京都医師会理事が司会を務め、後藤田卓志日本大学医学部長、尾崎治夫東京都医師会長の挨拶で開会した。

基調講演として、日本人としては唯一の英国国際山岳医で日本大学医学部兼任講師の大城和恵氏が「世界の名山と共に日本人初英国国際山岳医として」と題し、美しい山々の風景をスライドで紹介しながら、自身のキャリアを振り返った。まさに、弛まぬ努力と「好きだからできる」という精神力こそが今につながるっており、これこそが山岳医活動の源泉なのではないかと感じられる内容であった。

シンポジウムでは、落合和彦東京都医師会理事が座長を務め、「人生を楽しむ」必ず道はひらける〜をテーマに、石毛美夏日本大学医学部小児科学分野准教授が「小児科医として、こどもたちから学ぶ」、三木敏生日本大学医学部生理学分野主任教授が「ある外科医のオデッセイ」の講演を行った。続いて専攻医の海野昌也氏、研修医2年目の成田葉以氏も参加してパネルディスカッションが行われ、両演者は「とにかく好きなことをあきらめずに追い続けることが大切である」と強調した。

各演者からの熱い思いは、若い医師のみならず、医学生の心にも届いたのではないだろうか。

毎月第2火曜日開催

東京都医師会 定例記者会見

オミクロン株への対策を含めた 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等



尾崎会長

東京都医師会は12月14日(火)に定例記者会見を開催し、オミクロン株への対策を含めた今後の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等について、見解を示した。

今後の感染再拡大へ向けた 医療提供体制

猪口正孝副会長は医療提供体制について、「今後予想される感染再拡大に対して、現在の確保病床数でかなり対応できると思うが、問題は感染拡大のスピードだ。オミクロン株は感染力が強いと言われるので、第5波の時のように新規陽性者数が急増した場合、病床や宿泊療養施設等の調整が難しくなる」と述べ、

感染拡大を防ぐため、改めて者が増えている。第6波に備え、高齢者や基礎疾患がある方に感染が拡大する前に、なるべく早く3回目のワクチン接種を行うことができるように接種体制について協力していききたい」と述べた。

感染再拡大を阻止するための 検査体制の充実

黒瀬理事は「ホテルイベントや繁華街の飲食店を対象とした『東京コロナパス』(抗原定性検査陰性証明)の実証実験を再開した」と発表した。再開にあたり、「安心安全な社会経済活動の再活性化を維持するためには、あくまで標準的な感染予防策は必須であるが、シチュエーション別の感染リスクに応じて、ワクチン接種証明と検査陰性証明を併用するなどの対応を検討することも重要だ」と訴えた。

「AI受診相談・発熱外来 検索」の提供について

日々澤理事

角田徹副会長は「3回目接種では中和抗体価が飛躍的に上がり、オミクロン株を含めた新しい変異株にも有効だと推測されている。医療従事者、重症化リスクが高い方から順番に接種が始まるが、2回目接種が完了していれば、時間が経っても重症化予防効果は十分保たれているので、都民の方々には慌てずに自分の順番を待ってほしい」と呼び掛けた。

平川博之副会長は「地区医師会の多くは自宅療養者等への医療支援体制

検査医療機関による健康観察支援や往診体制の強化を行うことで、より自宅療養者等への支援体制を充実させたい」と語った。

日々澤理事は「東京都医師会では、AI受診相談・発熱外来検索システムの提供を開始した。AI問診では、症状などの決まった事項を入力すれば最寄りの診療・検査医療機関が表示され、その医療機関が発熱外来に登録されているかがわかるようになっている。東京都医師会ホームページよりアクセスできるので、迅速検査キット等で陽性の結果が出た方は、AI受診相談・発熱外来検索の利用をぜひお願いしたい」と述べた。



AI受診相談・発熱外来検索



猪口副会長



角田副会長



黒瀬理事



日々澤理事



平川副会長

166 みどりの広場

国立国際医療研究センターの新型コロナウイルス対策を振り返って

国立国際医療研究センター 国際感染症センター長 大曲貴夫



大規模クラスターへの対応が必要となり、関東だけでなく周囲のブロックの医療機関でも患者を受け入れることとなりました。重症者が多く、NCGMでも多くの重症者を受け入れました。

7月には第2波が発生しましたが、若年者中心の流行で軽症者が多く、第1波とのあまりの違いに面食らいました。各波で様相が違うのが、この感染症の特徴でもあります。

生じました。NCGMでは重症者を中心に受け入れを行い、最大で17人程度の重症者を同時に治療している時期がありました。救急外来にも状態が悪化した陽性患者がほとんど連発し、職員はその対応に追われました。

国立国際医療研究センターが、当院で診療した1例目の患者です。1月末には、武漢から政府特別機で帰国された20年1月に始まりました。武漢から日本を訪れた旅行者ほどをお迎えしました。その中には軽症の陽性者が数名おられ、我々は軽症のコロナウイルスの臨床像を知ることができました。2月には、横浜港に寄港したクルーズ船での

3月末から第1波が始まり、当院ではECMOと人工呼吸器での治療が必要な重症者を含めて最大時で70人ほどの入院患者の診療を同時に行

起りました。高齢者を中心に多くの重症者が発生して病床も逼迫し、中等症・重症の方が自宅にいても、なかなか入院できないなどの事態が起

コロナ禍においてNCGMでは、変化し続ける社会状況や感染動向に、体制をこまめに調整しながら柔軟に対応してきました。職員にとって、

最近、「江戸古地図散歩」がテレビや雑誌で人気です。特に両国から本所周辺には、今でも江戸の風情が色濃く残っています。

勝海舟は、本所亀沢町(現両国公園)の生まれで、江戸末期から明治初期に活躍した偉人の一人です。でも

なげ、大田区に彼の記念館が建てられたのか?それは晩年に勝海舟が、「名所江戸百景」にも描かれた風

光明な洗足池周辺を大変気に入って、別荘を建てたことと由来します。洗足池周辺は、さまざまな観光名所以外にもボート乗り場があり、カモや渡り鳥などが飛び交い、バードウォッチングも楽しめます。

大田区立勝海舟記念館は、令和元年9月7日に開館し、ネオゴシック様式を基調としたモダンな建造物(旧清明文庫)で、国登録

有形文化財に登録されています。1階は、海舟に関連した人物や事象を通じて海舟の人物像を紐解く「海舟ブレイク」(地球儀を模した映像機で、海舟の箴言と映像が味わえる)、実物資料やパネルの展示により海舟の一生を辿る「海舟クロニクル」、咸臨丸での航海の様子をCG映像で体験できる「時の部屋」のほか、企画展示室もあります。

2階は、踊り場の正面に勝海舟の胸像が飾られ、「旧貴賓室」「清明文庫ゾーン

「海舟ゾーン」「洗足池ゾーン」に分かれています。タッチパネルや映像などにより、海舟が愛した洗足池周辺の様子や明治維新で生まれた「新しい東京」の成り立ちや歴史、文化への理解が深められ、1階の展示とは別角度から海舟の一生を垣間見ることが出来ます。

また、アールデコ調やエジプト復興様式など、建物に複数混在する装飾や意匠も楽しめます。そのほか、海舟ゆかりの手紙や航海用具、江戸城登城の際の衣装、愛用の硯箱などから当時の江戸の生活様式や文化的背景を窺い知ることができ、ここでしか見られない貴重な資料が多数あります。



大田区立勝海舟記念館

幕末の歴史と文化を楽しむ

趣味の散歩

勝海舟記念館へは、東急池上線洗足池駅から徒歩8分。駅から中原街道を越えて、洗足池図書館から道なりに細い路地を入ると辿り着きます。周辺のそぞろ歩きもお勧めですので、ぜひ一度お越しください。(大森医師会・青柳光洋)

知っていますか?

ヘルスリテラシー

健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力。

ヘルスリテラシーを向上させることで、病気の予防や健康寿命の延伸につながると期待されている。

医師や看護師などの医療従事者は患者のヘルスリテラシーを考慮し、しっかりと把握したうえで医療や接遇を含めた対応に気を配り、健康や治療に関する意思決定を支援していくことが求められる。

60代の方々に重症者が多数発

7月に発生した第5波では、65歳以上の方々のワクチン接種率は高くなっています。越えていければと思っ

先に関西での情報を受けて、東京都も市民も素早く対応したおかげか、それほど大きな波にはならず済みました。

方と密に連絡をとり、協力しながらこのコロナ禍を乗り越えていければと思っ

掲示板

今日からはじめるメタボ&ロコモ予防ノート (くらしと健康ブックレット4)

増子佳世・水上由紀・坂手誠治 著



高齢になり、日常生活で家族や他者から介助・支援されて過ごすことは、本人はもちろん周囲の人々にとっても重要な課題であるが、メタボやロコモを予防することで、要介護状態になる要因を減らすことが期待できる。

本書では、糖尿病や脂質異常症、高血圧などのメタボに關係する疾患やメタボとロコモの関連などについて解説し、食事と運動の両面から生活習慣の改善方法について提案している。自分では気づかなかった食習慣の歪みに気づき、バランスの良い食事をするための食事記録のつけ方や、日常で取り入れやすい筋力トレーニングやストレッチについて分かりやすく解説している。

健康寿命を長く保つためには、毎日の生活習慣を少しでも見直し、食事や運動を改善していくことが何よりも大切である。著者が地域において実施している「メタボ&ロコモ予防講座」をもとに、役立つ知識や毎家庭でもできる実践方法を紹介しているの、ぜひ多くの方の健康の保持・増進に役立ててほしい一冊である。

発行▼大学教育出版 価格▼1,320円(税込)

都医ニュース2号(昭和36年2月発行)をお持ちの方はご一報ください 東京都医師会 広報学術課 ☎03-33294-8821

無声拝聴

親ガチャ

「親ガチャ」という言葉は聞き慣れない。子どもが集まるスペースなどにある小型の自動販売機、お金を入れてレバーを回すと小物が入ったカプセルがランダムに出てくる「ガチャガチャ」が語源だ。「残念な親のもとに生まれ、自分の人生が希望通りにならない」ことなどに用いられる。だ。「親は選べず、親次第で人生が決まってしまう」と不満を漏らしているのか。親を選べない、どんな家に生まれてくるかは運次第。アタリやハズレ、予想外の出方もある。

子どもに「親ガチャに外れた」と言われたら、親は非難されたと感じて切なくなるだろう。しかし、多くの若者は不平や責任追及のつもりで使っているのではないらしい。ガチャガチャで遊ぶように運として受け入れ、人生は運命的に決まっていると考えるようだ。また一方で、親の収入で子どもの成績や人生選択がある程度左右されてしまう格差社会であることも事実だろう。

中高年世代は、自分の努力で相応の成果が得られる時代を経験した。若者世代では、努力しても結果が期待外れになることも多い。高い理想を抱いても、多少の努力では報われない。持って生まれた宿命は変えられないと諦める。

子を持つ親は「子ガチャ」と感じるか？多くの親は子どもの養育に懸命であろう。それでも家庭の力では何ともならないことも多く、地域や国の健全な支援も必要である。配置ガチャ・会社ガチャ・国ガチャなどの流用もあるようだが、不具合な状況でも双方の立場で工夫したり、努力していくことが良いのだろう。

(石井一平)

妊娠と腸内細菌

胎児は両親の遺伝情報を持つため母体にとっては“半”同種移植片であり、母体が妊娠中に胎児を排除しないためには“妊娠免疫”が適切に機能する必要がある。その不調は習慣流産、胎児発育不全、妊娠高血圧症候群、早産などの原因になると考えられている。

早産の誘因として、まず腔内細菌叢の乱れが注目された。細菌性腔症が上行性に子宮に波及し、炎症を惹起し子宮収縮や卵膜破綻(=破水)を来たすという病態である。そこで切迫早産妊婦に対し抗菌剤投与や腔内洗浄が行われるが、それだけでは十分な早産防止効果が得られないことも多く経験される。そして近年、子宮とは直接接しない腸内細菌叢の重要性が分かってきた。2010年に国家プロジェクトとして始まった大規模疫学調査であるエコチル調査から、みそ汁・納豆・ヨーグルトの摂取と早期早産のリスク減少との関連が示され、腸内細菌を整えるプロバイオティクスの重要性が注目されてきている。妊娠の維持には制御性T細胞(Treg)が重要な役割を果たしているが、クロストリジウム属の一部が酪酸を産生し、腸内でTregを誘導することが知られている。

近年、腸内細菌を整えるいわゆる“腸活”が健康や長寿に良いと注目されているが、妊娠維持にも有用ということになる。酪酸菌を含む整腸剤はOTC薬として古くから市販もされている。これらの比較的安価に入手可能な薬剤が妊娠維持に役立つとしたら朗報であり、現在妊娠中の有用性に関する前向き研究が進められている。

(文責：山下隆博)

感染症豆知識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

都医からのお知らせ INFORMATION

第126回 慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー

慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課内
生涯教育研修セミナー事務局 TEL: 03-5363-3611
E-mail: med-somu-3@adst.keio.ac.jp

日時▶ 2月12日(土) 15時~18時 形式▶ WEB 配信
講演会▶ 『神経変性疾患における最近の話題』
モデレーター▶ 中原 仁 (慶應義塾大学医学部内科学教室 (神経) 教授)
対象▶ 慶應義塾大学医学部、三四会、慶應医師会、慶應義塾大学関連・紹介病院、東京都地区医師会に所属する医師
参加費▶ 無料・事前登録制 (申込多数の場合は先着順となります)
※詳細は慶應義塾大学医学部のWEBサイト (<http://www.med.keio.ac.jp/>) の「ニュース」にて後日お知らせします。
取得単位▶ 日医生涯教育制度 1.5単位 (CC : 62, 0, 29)
次回▶ 6月25日(土) 開催予定

日臨内「かかりつけ医のためのWEB講座」 ～スペシャリストがジェネラリストになるために～

日本臨床内科医会 E-mail: jpa@event-mhlab.jp

日時▶ 1月25日(火) 19時30分~21時45分 形式▶ WEB 講演
セミナー▶ 「科学的根拠に基づいた糖尿病運動療法」寺内康夫 (横浜市立大学大学院 教授)
①「関節リウマチ診断のノウハウとMTX治療の基本」野島崇樹 (日本臨床内科医会 学術部アレルギー・リウマチ班)
②「早期糖毒性解除を目指した糖尿病治療」古川健治 (日本臨床内科医会 学術部内分泌・代謝班)
③「かかりつけ医に必要な心療内科の知識 -入門編-」深尾篤嗣 (日本心療内科学会 「心療内科における内科学的発展プロジェクト」ワーキンググループ委員長)
取得単位▶ 日医生涯教育制度 2単位 (CC : 61, 76, 0)
申込方法▶ 右記QRコードまたは当会ホームページをご覧ください。
参加費▶ 無料



医師国保からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症に対する 本組合の対応について

- ～傷病手当金・見舞金を支給します／PCR検査については自家診療ができます～
- 新型コロナウイルスに感染した、または感染が疑われる被用者の方に、傷病手当金を支給します。被用者に該当しない第1種組合員の方には、傷病見舞金を支給します。
 - 行政検査としてPCR検査または抗原検査を自院で実施した場合については、自家診療を認め、療養の給付を行います。

詳しい内容、申請方法等はホームページをご覧ください
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6434 (業務課)

FM93.0 AM1242 月曜から金曜 ニッポン放送 あさ6時15分頃から 放送中!

『モーニングライフアップ今日の早起きドクター』

ニッポン放送 (AM1242kHz / FM93.0MHz) 朝の番組「飯田浩司のOK! Cozy up!」内で6時15分頃から5分程度、東京都医師会の役員等が出演して生活に役立つ健康情報をお届けしています。過去の放送はすべて番組ホームページまたはポッドキャストから聴くことができます。

■番組ホームページ
<http://www.1242.com/cozy/>

■ポッドキャスト
<https://omny.fm/shows/cozy-up/playlists/doctor>



日本医師会生涯教育講座

新型コロナウイルス感染防止のため、**事前申込制**とさせていただきます。

日時 **令和4年2月10日(木) 午後2時～5時** 【申込方法】研修申込システムにて申込

オンライン(Webex)のみで開催します。

【定 員】100名

【申込締切】令和4年2月9日(水)

【問い合わせ先】

東京都医師会 広報学術課

TEL: 03-3294-8821 (代表)

※詳細は都医ホームページを

ご確認ください



日本医師会生涯教育制度 合計2単位
カリキュラムコード 20、69
日本内科学会認定総合内科専門医更新単位 2単位

不眠症

座長 東京都医師会理事

落 合 和 彦

東京女子医科大学医学部精神医学
教授・基幹分野長

西村 勝治 先生

学校法人 慈恵大学
参与

伊藤 洋 先生

共催 東京都医師会
エーザイ株式会社

内科疾患と不眠

西村勝治先生

内科疾患には頻繁に不眠が合併する。プライマリ・ケアを訪れる患者の19〜44%に不眠が認められ、患者に大きな苦痛をもたらす。QOLを低下させる。このため、内科医には不眠に対する適切なマネジメントが求められている。

圧薬、ステロイドなどが原因となつて二次的に生じることがある。せん妄やうつ病の部分症状として生じる不眠もある。これらの鑑別に基ついた対応、睡眠衛生指導を行つても不眠が改善しない場合、対症療法として各種睡眠薬や他の向精神薬が用いられる。この場合、個々の内科疾患の特性を考慮した薬剤選択が求められる。

今後の睡眠薬適正使用

について再考する

伊藤 洋先生

不眠症(睡眠障害)は、日中の眠気の原因となり判断力の低下や反応時間の遅延、作業能力の低下を生じるため、交通・転倒事故などのリスクの増大に加え、うつ病や神経症のリスクの増大、起床困難による不登校や出社困難などの問題を引き起こすことが明らかになっている。また近年、睡眠不足がアルツハイマー病のリスクファ

クターである可能性が報告されており、認知症における睡眠障害の特徴や、睡眠障害と認知症を関連付けるメカニズムを理解することも重要である。

本講演では、睡眠障害の弊害やその治療の必要性について述べ、オレキシン受容体拮抗薬を含めた不眠症治療薬の特徴や使い方について解説する。

地区医師会長からの一言

日野市における 新型コロナウイルス感染症

日野市医師会長 西村正智



令和3年6月より日野市医師会長を拝命いたしました。日野市は人口約19万人、土方歳三の生誕の地です。

日野市は新型コロナウイルス感染症流行の第1波において、全国で最初に介護老人保健施設で従業員の感染者が確認されました。続いて、大手トラックメーカーの従業員の感染者も出て流行拡大が懸念されましたが、その後は比較的落ち着き、第3波前後に大学学生寮のクラスターや市内病院の院内感染が発生したものの局所発生に留まり、なんとか切り抜けることができました。郊外で人口密度も都心に比べて低いため、感染者数も第4波までは1000人以内に収まっていましたが、第5波のデルタ株の感染力は凄まじく、東京都の感染者が5000人を超えた8月のピーク時には、日野市でも自宅療養者が300人を超え、南多摩保健所の自宅療養者に対する健康観察業務に過大な負担がかかりました。ただ、多くが軽症に留まり事なきを得ました。11月現在、理由はまだ明確になっていませんが、新型コロナウイルスの感染者数は激減しています。しかし、諸外国の感染状況は悪化していて予断を許さない状況が続いており、第6波に向けた医療提供体制の整備が欠かせません。

一般住民のワクチン接種に関しては、当初ファイザー社のワクチンは冷凍保存が必要とのことで、市の方針として集団接種が想定されていましたが、国が練馬区方式を認めたため、医師会として同様の方式を提案して個別・集団接種併用で行うことになりました。既に日野市が平日の集団接種体制を構築していたため、接種体制の人材不足は全くありませんでした。後半の医師会主催の集団接種では薬剤師会の協力を得ることができ、12歳以上15歳以下への接種も順調に進みました。ただ供給量が不足したため、

一時16歳以上の2回目接種の予約が取れなくなりました。個別接種に際しては、当初アナフィラキシーショックへの対応が危惧され、既往がある方は別枠として市立病院で接種する体制を組みましたが、幸いなことにアナフィラキシーショックはほとんどありませんでした。

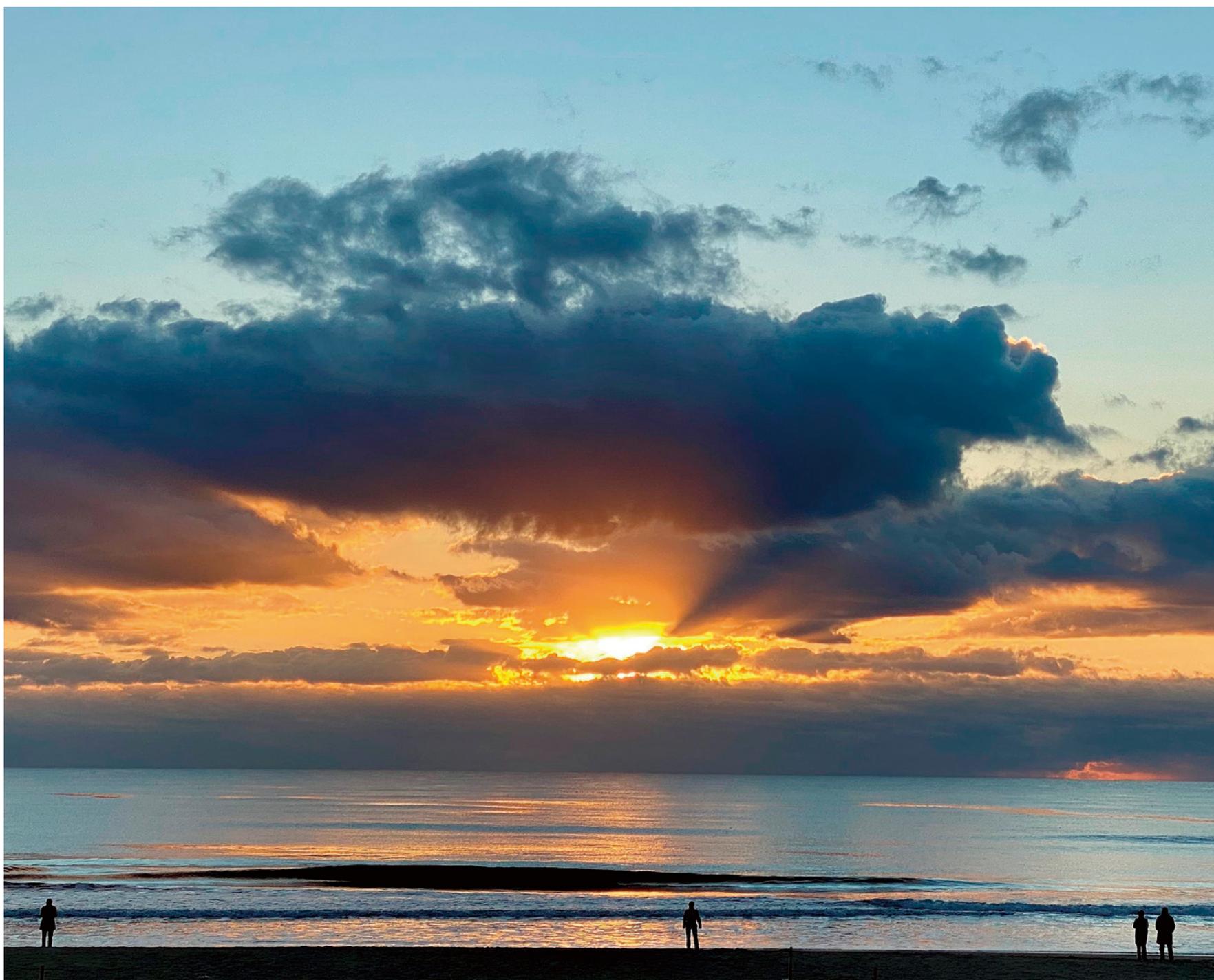
医療従事者への接種に関しては、日野市の対象者が3000人程度と少なかったため個別予約はせず、病院従事者から自院で接種を始めていただき、一般開業医はその後日時を割り振り、医師会館で集団接種をしました。その後、歯科医師会・薬剤師会・訪問看護ステーション・消防署の方々の接種も同様に行いました。今後の3回目接種も、同様の方法を基本として行う方向で日野市と綿密に準備を進めています。

十分な期間を経ていないため、ワクチンの長期的な副反応はいまだ不明ですが、高齢者の接種が重症化予防に多大な貢献をしたことは、統計的に見ても明らかです。ワクチンの正しい理解のために、ジェンナー以来の諸外国のワクチンの歴史や明治期における種痘ワクチンの歴史を学び、それをもとに自身で冷静に必要性を判断するための教育の場が必要ではないかと思考しています。

日野市医師会は予算規模も都心の医師会に比して小さく、医療資源も豊富ではないため、先頭を切ることはできませんが、後手になることはないように対応しています。また、会員の地域医療にかける思いが無理なく発揮できる場として、会員の目線で対処していくことを心掛けています。現在、ポストコロナに向けて2040年問題、SDGsを始めとした課題について、地域包括連携協定に基づき日野市と話し合いを始めています。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

頌春

東京都医師会長 尾崎 治夫



冬の朝日

武蔵野市医師会 藤田光裕